

## 令和4年度 地域活性化人材育成事業～SPARC～審査結果

地域活性化人材育成事業～SPARC～委員会における審査の結果、貴大学から申請のありました下記事業計画が採択されました。

大学名	熊本大学	整理番号	5	タイプ	②
事業計画名	くまもとの未来を拓くグローバル DX 人材育成プロジェクトー地域社会と国公私3大学の連携による”くまもと型文理融合 DX 教育”の構築を目指してー				

### (採択後公表)

#### [採択理由]

本事業計画は国家戦略を前提に、熊本県が今、必要としている半導体関連企業、行政および金融におけるグローバル人材・DXを推進する人材育成を目的に、産学官金が強力にタッグを組み、出口戦略に基づいた大学教育改革を進めるものであり、地方創生のモデルとなり得る取組であると高く評価する。

本事業計画の特徴として、すでに構築されている地域連携プラットフォームの事務局を熊本県が務めるなど、その活動全般を支える県の強い意気込みが感じ取られることから、地域のニーズがしっかりと反映され、かつ実施可能性が高いと判断する。また目的が明確であることから事業計画も確実に実施できる具体的な内容が示されている。その内容も、学生を対象とする大学間連携による教育プログラムに加えて、女性の労働力率を全国5位以内に引き上げる自治体の施策と連動した女性のデジタル人材・半導体関連人材の育成に特化したリカレント教育構想も評価できる。またこのDX時代においてリアルタイムプッシュ型フィードバックシステムは、オンライン学習支援の一助となり得る。

核となる大学間連携も十分に練られており、事業責任大学、事業参加大学、事業協力大学のコミュニケーションも円滑に取られている様子がうかがえる。形だけでなく、真に大学間が連携を取り、お互いの強みを共有しながら地域のニーズに応じていくあり方は、他大学連携の見本となるべき姿である。また学長直下に「半導体・デジタル研究教育機構（仮称）」を設置し、人事、予算執行等を含む機構及び本事業運営のための権限を与えることで、従来の慣例等にとらわれない柔軟な研究教育環境を目指している。

以上のことから、本事業計画は「地域社会と大学間の連携を通じて既存の教育プログラムを再構築し、地域を牽引する人材の育成」という今回の事業趣旨に沿った他地域への波及も期待できる優れた提案となっていると判断できる。